

祇園

中川 涼

(2019 年度入学 鈴木ゼミ 3 期生)

多くの歴史的文化遺産を抱える京都。清水寺や金閣寺、私たち京都産業大学生に馴染み深い上賀茂神社など日本の都、「古都」を示す文化財や風景が京都には溢れている。そして「古都」が日本の「和」の文化を表す上で最も適切な表現、京都の魅力だと考える。そこで私が紹介したい私の好きな京都は祇園だ。情緒漂う古き良き街並み、観光地としても有名な祇園をこれから紹介していく。

京都出身の方であれば知っているが、京都出身ではなく、祇園を知らない人のために説明しておく。祇園は京都市東山区にある京都を代表する花街のことだ。

これからより深く、祇園の歴史や魅力について語っていく。まず祇園という名前はどこから来たのか。それには祇園の近くにある八坂神社が深く関係していた。明治以前の神仏習合の時代に、八坂神社は「祇園社」と呼ばれていた。祇園社でお祀りをしていた牛頭天王は、仏教の聖地である祇園精舎の守護神であり、祇園神とよばれていたため神社の名前やその周辺の地名が祇園となったと言われている。



次に歴史について紹介する。驚いたことに現在の街並みのイメージから判断すると祇園の歴史はとても古いと思っていたが、実際はそうではなかった。京都自体は日本の都



として 1200 年以上の歴史があるが、祇園が栄え始めたのは江戸時代に入ってからだ。芸妓と舞妓による三味線の演奏や演舞の人気の上昇し、文化人の交流の場としても有名となった。そして大正時代にかけて祇園は京都最大の花街として繁栄していった。私の勝手なイメージで祇園の歴史は平安時代ごろまで遡っていたのでこの事実は私にとって衝撃的だった。

ここからは現在の祇園の魅力と私がなぜ祇園が好きなのか、語っていく。現在の祇園は先に述べたように、京都を代表する花街だ。祇園には花見小路や祇園白川など観光スポットも多いことから国内外から観光客が集まる人気の観光地となっている。また、祇園は京都最大の花街で芸妓且つ舞妓の街でもあり、都をどりや公演を見ることもできる。

茶屋の数は昔と比べて減って来てはいるものの、お座敷体験ができる店もある。京都有数の観光地であり、お洒落な飲食店も多く、京都ならではの食を楽しむことができる。私も2度、祇園で食事をしたことがある。1度目は「侘家古暦堂」という鶏肉専門店の親子丼。2度目は「ぎをん西坂」というお店で湯豆腐を頂いたのだが、どちらも普段私が食べている親子丼と湯豆腐とは違



い、お洒落で美味しかった。おすすめのお店だ。ただ、観光地でもあり、どちらも少々値段が張り、大学生が気軽に出せる額ではなかった。

このように祇園は花街としての魅力もあるが、私が一番好きな祇園の魅力は、「古都」を表す風情ある街並みだ。私が先に紹介した飲食店は花見小路という通りにある。花見小路は三条通から建仁寺に続く小道上で、京都らしい昔ながらの木造建造物が並んでいる。そんな中でも最も風情溢れる街並みが祇園白川だ。鴨川に向かって流れる白川付近は、



「はんなり」が似合う場所で昔にタイムスリップしたかのような雰囲気が味わえる。石畳の道が続き、川のせせらぎが聞こえ、春には桜が咲き、秋には紅葉が色づき、白川の異橋と調和し、その場にいるだけで心が癒される。自然と建造物が一体化し、古き良き美しさを出している祇園は、どの季節にどこを歩いても目を奪われる景色ばかりで飽きることがない。

これまで述べてきたように祇園は京都を代表する花街として、歴史的建造物や風景など「古都」を表す多くの魅力がある。ただ、これらの魅力は決して努力なしに現在まで保たれてきたわけではない。それは、京都市が行っている祇園の歴史的景観保全修景地区によって建物の高さは15m以下とし、屋根材は日本瓦、銅板又はこれらに準ずるもののみにするなど建築物の形態も事細かく限定されている。その他にも優れた意匠・形態を有する京風町家で形成された街並み景観を後世に伝え、且つ魅力ある生業や生活が営めるよう環境を維持・増進する取り組みも行われている。美しい街並みは、多くの人の思いと努力から成り立っているのだ。私はこの事実を忘れず、今以上に祇園に魅力を感じ、今後のゼミ活動にも活かしていきたい。

<参考文献>

・ tabiyori どんな時でも旅日和に <https://wondertrip.jp/101991/>

(最終閲覧日 2021年6月9日)

・ 京都マンスリーマンスションコラム <https://www.kyoto->

monthly.jp/column/2019/09_04.html

(最終閲覧日 2021 年 6 月 9 日)

・ RETRIP <https://rtrp.jp/articles/76924/>

(最終閲覧日 2021 年 6 月 9 日)

・ 京都市情報館 <https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000281263.html>

(最終閲覧日 2021 年 6 月 9 日)